那珂市議会 議会運営委員会記録

招集日時 令和7年7月11日（金） 午前10時
招集場所 那珂市議会第2委員会室
出席委員 委員長 大和田和男 副委員長 寺門 厚
委員 鈴木 明子 委員 寺門 勲
委員 小池 正夫 委員 君嶋 寿男
欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 木野 広宣 副議長 富山 豪
事務局長 会沢 義範 次長 萩野谷智通
次長補佐 三田寺裕臣

会議に付した事件

- (1) 那珂市議会ハラスメント防止条例（案）について
…内容等について協議
- (2) 那珂市議会政務活動費の交付に関する条例の一部改正について
…内容等について協議
- (3) 那珂市議会会議規則の一部改正について
…内容等について協議
- (4) その他
・ 広報編集委員会との合同の視察研修について

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 閉会中の議会運営委員会にご参集賜りまして、誠にありがとうございます。

では、早速始めさせていただきたいと思います。

ただいまの出席委員は6名であります。定足数に達しておりますので、これより議会運営委員会を開会いたします。

職務のため、議長、副議長及び事務局職員が出席しております。

ここで、議長のご挨拶は割愛をさせていただきます。

早速でございますが、議事が立て込んでおりますので、議事に入らせていただきます。

それでは、（1）那珂市議会ハラスメント防止条例（案）についてを議題といたします。

今まで議会運営委員会で再三協議をしてきましたが、ここで事務局より1つ説明がありますので、お願いします。

次長補佐 今まで協議していただいた中で、ちょっと1点、変更点がありますので、そこにつ

いて説明させていただきます。

第1条ですが、以前は、「この条例は、議員間のハラスメント及び議員から職員等に対するハラスメント」ということだったんですけれども、その逆もあるのではないかという議論もあったかと思imasので、今回、「議員間や議員と職員等に関するハラスメントを防止するために」というふうに変更のほうをしております。

それに伴いまして、第5条の第4項です。1行目の最後のほうなんですけれども、「当該ハラスメントを行った議員に対して指導」ということだったんですけれども、「議員又は職員」というふうに変更してあります。

この間の経過も、あと申し上げますと、令和6年10月時点では68条例という形だったんですけれど、令和7年6月30日現在は127条例ということで、大体倍の条例ができているような状況になっております。

説明は以上になります。

委員長 ありがとうございます。

次長補佐 今度、ふじみ野市に議会広報と一緒に合同で行くと思うんですけれども、その中で、前、政治倫理条例に入れ込んでどうかというお話もあったかと思うんですけれども、ふじみ野市がそのような例なんで、これについては、ふじみ野市で研修視察した中でまた変わってくる可能性はあると思うんですけれども、そこは研修で聞けると思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

あとは大きく変わったというのはそんなにないですよ。

次長補佐 そうですね、いろいろあったんですけれども、そこまで変えるところはないというか、市民全体を巻き込むというのもちよっとどうなのかなというのもありますし。

委員長 前回、石岡市に視察に伺った際に、ヒアリングシートみたいなものも那珂市版は作ったのは作ったんだよね。

次長補佐 一応、案というか。

委員長 石岡市に倣って那珂市版というのを作りまして。また前回言われたところでありますと、気になるところが、第三者の委員会はどうのようにするのかと言われたのと、あと、議長の権限というところで、ほかの議員から質問があったと思うんですけれど。

次長補佐 第三者につきましては、総務課のほうとも確認したんですけれども、政倫審の委員の方がいますので、今6人いるそうなんですけれども、それを全員また改めて条例に盛り込むのか、また、議会として何人かにその中から願います、個人的に、個人的にとりか議会としてです。そういうことも可能だとは思imasので、そちらはどちらかではできるのかなとは思imasので、しております。

委員長 どうですか、その点について。その点じゃなくてもいいです。

鈴木委員 議長の責務のところ、第5条のところ、職員に対しての指導助言、注意という

のは、権限としてはできるものなんですか。

事務局長 職員に対して直接注意、指導というのは、議会のほうの権限としてはないかと思えます。もしできるとすれば、どちらかという、その後の、その他必要な措置を講じるものの中で、例えば市部局のほうに申立てをすとか、そういった措置を取るような形になるのかなというふうに思います。

鈴木委員 そのような認識だとすると、この文章はこれで伝わるのか、ちょっとどうなんですか。

委員長 なるほど。

次長補佐 こちらはちょっと事務局の案という形なんですけれども、この後、正式に例規審査会のほうも通しますので、意図は説明した上で、こういう意図だという説明した中で、諮っていいかなとは思っています。

委員長 分かりました。

鈴木委員 第6条なんですけれども、公表などということで、それまでは職員に対しても必要な措置をするということだったと思うんですけれども、これはハラスメントを確認したときは、公表とかその他必要な措置を講じなければならないのところで、議員のみになって、議員の氏名の公表とかその他の必要な措置を講じるということなんですけれども、それは職員に関してはどのような、こちらには公表等ということだから、こちらにないという認識でよろしいんですか。

次長補佐 先ほど局長が言ったように、あくまでも議会から申入れしてということなので、あとは執行部の判断という形になってくるのかなとは思っています。

事務局長 執行部のほうも相談窓口がありますので、職員の中で外部からのそういうハラスメント、議会のほうで確認できたら、その部署に相談して、職員の処分についてはそちらのほうの審査会とかそういうところで判断というふうになるのかなと。

委員長 そこだよね。だから、それが、要は伝わるか伝わらないかの文言がちょっと整理をしたほうがいいということだよね。ちょっとその部分も審査会で。

事務局長 職員の氏名公表というのは、正直それはなかなか難しい、議員の皆さんですので、公人としていうものだと思いますので。

議長 実際、常陸太田市でこの案件があって、アンケート取ったりとかした部分があるんですけれども、そういう話は聞いていますか、聞いていないですか。やっぱり常陸太田市議会のほうでもあったみたいで、職員にアンケートを取ったりとか、詳しくは、その経緯は分かりませんが、議員が何かやっぱり言ったみたいなんですよね。その辺もちょっと聞いていただいて、どういうふうに対応されたのかというのをちょっと調べていただくのも1ついいのかなと思うので、よろしくお願いします。

君嶋委員 やはり参考に、今、議長が言ったように常陸太田市でもありましたけれども、稲敷市でも実際、議員が職員に対して大分強いことを言って、それが百条委員会にかけられ

て、最終的には、その方は次の選挙のときには出ない、出ないというか辞退したみたいな感じのことをこの間言っていた方がいましたけれども。やはりそういうふうに分断されて、言葉の一つ一つが大変いろんな問題が出てくるというのもあるみたいです。

委員長 暫時休憩します。

休憩（午前10時10分）

再開（午前10時17分）

委員長 文言に関しては、先ほどの鈴木委員の話も含めて一旦、例規のほうにかけていただいて、ちょっと整理するというのもそうですし、また、先ほどアンケートとかそういう話もありますけれども。録音の話とかというの、逆に言えばこの条例をつくることによって、つくって、今後そういうことをこの条例に基づいて、そういうことをしていこうと、執行部に申入れしていく、アンケートを取るように、この条例ができたからしてはどうですか。例えば録音をしてはどうですかというの、この条例に逆に基づいて提案していくというの、条例のほうが先になっちゃう場合でも、それは可能なのかなと思うんですけれども。

君嶋委員 あと、やはり他市町村の実例などを参考にして、そういうものも全員協議会で説明するとか、委員長から。そういうことをして理解を得ることも大事かなと思うんですよね。そういう中でいろんな要望があれば、執行部にも要望させていただくということをお願いできればと思います。

委員長 分かりました。

そのほかにありますでしょうか。

鈴木委員 相談整理表をいただいたんですけれども、フローみたいなものというのは作成の予定とかというのはありますか。

次長補佐 今はまだないんですけれども、多分この条例ができたら、その下に要綱とか規則的なものはつくっていく、石岡市もそうだったと思うんですけれども、そこまでいった中でつくっていく必要があるのかなとは思っています。

委員長 ありがとうございます。

ほかにありますか。

（なし）

委員長 今出た意見を参考に、また要綱なんかも少し概要なんかもつくって行って、今度の8月の視察研修でそのハラスメントの関係も聞いて、そして、その意見をまとめて8月の全員協議会で委員長報告を行いたいと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ声あり）

委員長 ありがとうございます。

続きまして、那珂市議会政務活動費の交付に関する条例改正についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

次長補佐 政務活動費の交付に関する条例ですけれども、来年度の予算取りの関係もありますので、交付額の額、今1万円になっているんですけれども、その額をまず決定していただきたいと思います。9月定例会に上程していただければと思っております。

もし交付額を上げるとなれば、別表が広報広聴費と1つになっているんですけれども、これを2つに分けたいと考えております。これは以前申し上げたと思うんですけれども、1つの項目で上限を2分の1とかにしている市町村も多いので、ここは厳しくしたほうがいいのかと思いますので。この広報費と広聴費を一緒にしてしまうと、結構割合が高くなっていくのかなと思いますので、ここを分けたほうが使いやすいのかなという事で、このようなことを考えております。

また、政務活動の手引きもあるんですけれども、そちらにつきましては、条例を通してからでも、今後精査して行って、1月とか2月あたりに全員協議会で報告できればいいのかなと思いますので、まず額の決定のほうをさせていただければと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

この件に関してご意見ありますか。

小池委員 2分の1にするということは前にお話しいただいたんですけれども、半分、例えば広報、自分の政務活動みたいな広報出す、そのあと半分は例えば書籍購入とかそのように使ったらいいという。

次長補佐 例えば広報関係。それだけで例えば24万円ではなかなか市民への説明もつかないのかと思いますので、例えばそこだけは12万円までにする。それ以外、研修費とか多分いろいろあると思うんですけれども、書籍買ったり、そういうのも当然ですけれども、あと説明会をやるのに場所を借りたりとか、そこが広聴費になってくると思うので、そこをちょっと分けたところなんですけれども。そういうことで、今現在だと広報だけで終わっている方が結構多いんで、そういうのは直したのほうがいいのかなというのは事務局の考えではあるんですけれども。

小池委員 分かりました。

鈴木委員 広報費と広聴費を分けたということなんですけれども、広報紙の中に広聴の部分も入ることってあるじゃないですか、このQRコードを読み込んで、そこから要望とか何かというのを募集しますみたいなこともあると思うんですけれども、それをこの広報広聴費を分けて考えると、どのような考え方になるのか教えていただきたいんですけれども。

次長補佐 今、事務局でもちょっと調べているんですけれども、按分になってくるのか、この部分は広聴費となるのか。ちょっと今、他市議会の事例もいろいろ調べているので、そこは10月なりにお示しできると思いますので、もう少しお待ちいただければと思いま

す。

君嶋委員 広報費というのは先ほども事務局で言ったように会報を出すものに対してはもう2分の1って、だから24万円で決まれば12万円までは使えますと決めてやって、その広聴のほうのQRコードを引っ張ってきて、そっちから次の意見をまとめるとか、それはまた別に考えても私はいいのかなと思うんです。だから、そこは広報紙をつくるだけには12万円、12万円を上限にしてつくと。だから、それまでは認めましょうと、そういうふうにしてもらったほうが分かりやすいのかなと思って。そこからまた別に入って行って、それを含めてというもまたいろいろ、それは次の広聴費の中で使えるように、いろんな声を聞いたものを今度は調査したりとか、そういうものに使えますということであればいいのかなとちょっと感じたもんですから。

委員長 例えば広聴費というのは、何が考えられるだろうね。

次長補佐 広聴費は、先ほど言ったアンケートとか要望を集める費用、説明会なんかをやるとき会場を借りると思うんですけれども、そういうのは広聴費になってくると思います。

副議長 そうなってくると、紙媒体の中に入れ込んである分というのは全部広報の中に入っている。

次長補佐 広報に入ってくるのかなとは思いますが。

副議長 申請上がってきたことに対して、今度はリアクションすることに対しては広聴のほうで使えるということなのかな。

もう一点、皆さんちょっと伺いたいんですけれども、よく文書通知箱に研修会のお知らせが入っていると思うんですけれども、皆さん、ああいうのって利用したときあるんですかね。あれ結構高いですよ。それにも参加したとき使えるということですよ、今でも使えるんですけれどもね。

次長補佐 前もあったと思うんですけれども、研修費とかそちらがちょっと足りないというお話もあったので、できればそちらのほうにほかの12万円を使っていたらいいかなと。

副議長 それに参加するための、移動するための交通手段も全部。

次長補佐 全部出せます。

議長 車の場合は距離でしょう。

次長補佐 うちで算出しているのが根拠になってくる。

君嶋委員 それを説明できるように議会だよりに自分の活動報告をぼんと出して終わっちゃうんじゃないかって、やはり幅広く使っていますよということを皆さんに知ってもらわなければならないということ。

鈴木委員 そうしたら、広報費と広聴費は一緒のほうがいいのかなと思うんですけれども、この分けたのというのは何かメリットじゃないんですけれども、何かあるんですか。

次長補佐 2分の1の部分で、広報広聴費のままだと、すぐに2分の1になってしまうのかなと思うんです。

副議長 誰々と語る会、聞く会、意見を聞く会みたいな会場設営とかいろんなところに使うお金も全部広報の中に入っちゃうという。だから、あくまでも印刷物を発行してお届けするのは広報ということに限定して、分けたほうがいいんじゃないか。

次長補佐 使い勝手もいいんじゃないかと。

副委員長 広報として使うのは2分の1を限度とするという枠を設定するよと。

次長補佐 そうですね、それをちょっと考えたいとは思っています。例えば研修費にしたって2分の1までということ。1つの項目では2分の1が限度額ですよと。

副議長 広報なんか出す方は、分けてもらったほうが。

議長 これを決めることによって、一度やっぱり、これは認められるけれども、これはできませんというのを意外とみんな手引きを見なくて、最後の提出するときに、これは駄目ですよって。やっぱりあると思うんですよ。その勉強会をやっぱりやってもらったほうがいいのかな。だから、新しい方も含めて、この部分は認められます、この部分は駄目ですよというふうに、急に言われても、お金返さなくちゃいけないんで、返金するから。逆に、鈴木委員なんかもまだ初めてだから、どこまで使っていい、出していいのかという部分があると思うんですよ。だから、ちょっと事務局には負担がかかるんですけども、一度そういう説明会をやっていただいたほうが、全員協議会とか利用して。

次長補佐 10月以降に議会運営員会でもう一回案を出させていただきますんで、政務活動費の手引きのほうですね。そちらをちょっともんでいただいて、決定したら1月か2月頃に、あまり早くやってしまうと、今年分は違うので、来年度の手引きなので。やるタイミングはちょっと考えさせていただきます。

副議長 自分の広報で例えば後援会を名前入れちゃうとアウトだったり、あるいは内部討議資料で必要なのかとかいろいろなもの、分からない部分というのは多分あると思うので、その辺のどういう広報の作成の仕方がその対象になるのかとかという、議長の言うとおりに含めていただいて。難しい部分ちょっとあるんで。

次長補佐 そちら辺もある程度厳しくしたと思います。

鈴木委員 あと、今まではできていたけれども、これからは駄目ですよみたいなことも教えていただければ。何か新聞がどうのとかってこの間もお話しされていたかなと思うので、そういうのも、ご面倒でも教えていただければと思います。

次長補佐 政務活動費の手引きを改正するときちょっと議会運営委員会に諮りますので、その中でちょっとまたこうしたほうがいいというものもあると思いますので。

委員長 分かりました。議会運営委員会で一度それをやりながら、交付が4月ぐらいだよ、例えば令和8年ね。頭ぐらいにやらないともう使い始めちゃうから。だから、令和8年度になったらという感じで。

あと、今回はちょっと額の決定をしなきゃならないという、予算上。額の決定になると思いますので。

副委員長 元に戻す理由をつけないといけないんで。これだけもらっていますよというの。

委員長 なかなか政務活動費を上げるというところはあまりない、他市町村でもないから。ただ、元に戻すというところあったんだよね。

(複数の発言あり)

委員長 そうなんですよね。だから、先ほどの広報だけで終わっちゃうと、やっぱり議員の資質向上という面ではちょっと弱いので、議員の資質向上ですとか、そういった活動の幅の拡大という意味も含めて、またあと物価高騰はもちろんですけれどもね。これ市民も同じだなんて言われちゃうとあれなんですけれども。多分それはあると思うんですけれども、そこは何とか元に戻すという案件であれば。

副委員長 多分そうなると、市民のほうからデータを直接見ている方もたくさんいるんで、過去のデータも出ているから、そうすると項目別に、うまいこと言ったって、使っていないのって言われちゃうと、その可能性もあるんでね。その辺はうまくというか。

委員長 そうですね。使えるものとかそういうのを少し厳しくするというのもしっかり伝えながら、それでいえば、このぐらいだというのは金額は元に戻すという感じですかね。

副委員長 それは元に戻すでいいと思いますね。

君嶋委員 金額を増額するわけではなく、以前の月2万円に戻すという理由で、やはり物価高騰で資料を作るのにも金額も上がってきていると。それと、広報費だけに使われるんじゃないくて、やはりもっと幅広く議員活動をするための活動費として使いたいということを入れれば、皆さん見ているし、そこで納得はしてくれるかなと思います。

(複数の発言あり)

副議長 これは使わなければ返さなくちゃならないお金だから、そんなに厳しくは言われられないのかなと。使わない人は戻しますからね。認められないものは認められないって却下されるわけですから。

君嶋委員 使わなければ戻しますということだから。報酬と違って。

副議長 しかも、しっかり事務局の目が入って、駄目なものは駄目だと。

(複数の発言あり)

副議長 ほかって水戸市が高いんですけど、一番。

委員長 水戸市は9万円。

(複数の発言あり)

副議長 突出して報酬も高いわけでもないですし、那珂市は。

委員長 そうだね。分かりました。

それでは、元に戻すという形で月額2万円をというように決定し、もしかしたら市民の皆様は何だかんだと言われる場合は、一生懸命私、研修して資質を向上しているんだと、勉強しているんだということを言いながら対応していただけたらなど。これも8月の全員協議会で委員長の報告をしたいと思います。

続きまして、那珂市議会会議規則の改正についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いします。

次長補佐 こちらも以前からお話がありましたように、広報編集委員会の活動の幅を広げたいということで、今度、視察研修のほうも行くわけですけれども、今回、広報編集委員会のほうで案がまとまりました。今までは広報編集委員会がありまして、さらに議会のICT推進検討会がありました。その2つを1つにまとめるような形で新しい名称としては議会広報委員会として、広報以外にSNSとかそちらのほうを協議調整のほうをしていくということになっております。

こちらにつきましても、研修行って若干変更が出る可能性はありますが、9月の定例会に上程していただくような形で考えております。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

このようになりましたが、どうでしょうか。

どうですか、寺門副委員長ですか、広報の。

(複数の発言あり)

委員長 新しい名称を議会広報委員会と、広聴までという話もありましたが、これは後々のまた宿題という形になろうかと思いますので、議会広報委員会に変更ということで、これも8月の全員協議会で報告しますが、もし視察研修へ行ったときにもっと何かいい案とか、その8月のときも。であればまたその話を追加させていただきたいと思います。

その他についてですが、まず事務局からその他についてちょっとお願いします。

次長補佐 8月7日、8日の広報編集委員会との合同の視察研修なんですけれども、行程表のほうをお送りしましたので、よろしくをお願いします。

もう一点なんですけれども、7月25日に全員協議会が予定されているかと思うんですけれども、臨時会のほうが執行部から申出がありましたので、議会運営委員会、全員協議会、臨時会という流れになると思いますので、通知のほうは今日差し上げますので、確認していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局からは以上です。

委員長 視察と臨時会についてですけれども、ご意見ありますか。大丈夫ですか。臨時会も大丈夫ですかね。

暫時休憩します。

休憩（午前10時46分）

再開（午前10時47分）

委員長 再開します。

副委員長 以前、ひまわりフェスティバルに議会としてブースを設けて出展をしたんです。PRアンド皆さん方のお声を聞きましようみたいな形でやったんですけれども、2回やり

ましたかね。これからはフェスティバルが分散して開催されるので、例えば会場は宮の池のほうになる、今度は。産業祭と一緒にパート2がフェスティバルということになるので、その辺も併せて議会のPRも含めて、もう一遍出してみたらどうでしょうかというのを皆さんにお諮りしたいなという。

委員長 補足なんですけれども、ひまわりフェスティバル、暑さの中で議員と語ろう会出張版みたいなことでやったんです。要は来て、市政についていろいろ言ってくれるという話なんですけれども、まず、昼間で人がいない。ひまわりフェスティバルは暑過ぎて。だから、ひまわりフェスティバルが、昼間、全然人がいないというのもあって、もうちょっと議員と語ろう会はもういいみたいな話になったという経緯があるんですけれども。

君嶋委員 ひまわりフェスティバルの那珂市議会になったときにも、議員会があったんで、そのときには、夏のひまわりフェスティバルは金魚すくいとか、そういうイベントも参加をして、そこで皆さんと触れ合う場所としてやっていたんですけれども、だんだんそれも天候も暑くなってきたり、参加者も少なく、参加者というか、皆さん自由参加のような形を取っていたんで、人数も多かったんでやっていたんで、それから一時なくなって、やはり議員と語ろう会のひまわりフェスティバルバージョンをやって、そして、もう暑いときで、なかなかそれも、あそこで話をするのも、ちょっと写真を撮ったりとかそういうこともやって、今は皆さんの声を聞くとして、委員会が出向いて語ろう会やっていきますから。だから、どういうものをやればいいのかということなんですよね、いい那珂フェスというかそのときに議会として。それならば駅伝のほうに、議員の駅伝枠で出ていただければというのもちょっと。

副議長 まさに君嶋委員言うとおりの何をやるか。例えばまた語ろう会みたいなことをやって、ひまわりフェスティバルなんか特にそうだったんですけれども、あの暑い中で市政を語ろうなんていうよりも、やっぱり那珂市議会をいい意味でPRするのであれば、金魚すくいであったり、もっとライトなもので、議会をPRできればいいのかなと思うんですよね。あまり堅苦しく語ろう会みたいなね、膝突き合わせて、ちょっとそれはまた違うんじゃないかなと思う部分あるんで。何かもう別の意味で、軽いPRができればいいのかなと思います。

以上です。

事務局長 ひまわりフェスティバルのときも、例年ですと、横手市議会の皆さんに来ていただいていたんですね。そちらの接待等を行っていたわけなんです。ひまわりフェスティバルのほうで、今度イベントなくなりましたので、今度、いい那珂フェスティバル、10月に開催されるようです。そのときに合わせて、横手市議会の議員の皆さんをご招待して接待といいますか、ご案内をするというものもちょっと予定があります。改選なので、横手市議会のほうは難しいのかなという、まだちゃんとした回答はいただいていませんけれども、ちょっとそういったこともありますので。あと、議員会が昔ありました。そ

こで積立てというところもあったんですけども、議員会がなくなってしまったので、そちらのほうの予算というのは事務局のほうでは今のところちょっとないので、その辺の工面ということも必要かなというふうには思います。

すみません、以上です。

副議長 結局は、寄附はできるんですかね、みんなで集めて、議員会をつくっていたときみたいな感じでお金を集めて、それで何かをやるとかって。

副委員長 それは別に問題ないんじゃないですか。

副議長 問題なしですか、それは問題ないですか。

(複数の発言あり)

事務局長 例えばイベントをやってお金を取ればあれなんですけれども、単純に金魚すくいをやって金魚を配っちゃうと寄付行為になってしまう。

委員長 寄附行為になっちゃうから駄目。

(複数の発言あり)

委員長 何か今、ブースを募集しているんだよね。商工会から回ってきたから、そう思えばと思ったしだいもあって、どう思いますか。

鈴木委員 目的が市民の方ともっと身近に感じてほしいとか、議会に興味を持ってほしいというのを目的としてということであれば、参加する意義はあるのかなと思います。

副議長 あまり複雑なことを考えないほうがいいということですよ。

委員長 例えばそうなると、ブースを構えるほどでもなくということもあり得る。

(複数の発言あり)

副議長 どういうことができるか、今後考えるにして。

鈴木委員 期限ってありますよね。

委員長 やるかやらないかの期限。ブースを出すか出さないかの期限が多分出てくると思うので。これまだ時間大丈夫かな。そうしたら、25日までの宿題か、7月25日までのちょっと宿題にしましょう。皆さんの例えばこうしたほうがいいというよ。

(複数の発言あり)

委員長 分かりました。7月25日の宿題ということで。

あと、その他のご意見。

暫時休憩します。

休憩(午前10時54分)

再開(午前11時01分)

委員長 再開をいたしまして、個人のSNSの課題も今後、議会運営委員会かどうかはちょっと微妙なんですけれども、やっぱり議長も含めて、これからちょっと検討したり、あと、先ほど言った議会広報編集委員会が議会広報というのでウェブにも注視していく、力を入れていくという、注力していくということなので、やっぱり勉強会を積み重ねながら、

そして、例えばウェブ上でもハラスメントなんていうのも起こる可能性も、これは出てくるといことなので、一体化してちょっとみんなで研究をしていきたいなと思います。

あと、ちょっと私から1点あるんですけども、議会運営委員会の中で聞きたいなという、委員の皆さんに聞きたいということがあって、ちょっと最終日の本会議の話があって、討論が最近、非常に闊達にされているというのはいいことなのかなと思うんですけども、ただ、私的にはちょっと、市議会が委員会主義というのがあって、例えば所管の委員会の方がその内容について議論をして、その委員会の中で賛否を採って、今度は本会議で委員長が報告するという形なんですけれども、その所管委員会の委員が所管の内容を本会議でも討論をするのは、何か委員会主義とかそういうものに違うのではないのかなと。委員会で議論された内容、自分の委員会なんだから、自分の委員会で賛成、反対で討論して否決をしたものをまた本会議に持ってきて賛成、反対だといってどんとやっているのというのは、これ委員会の中でやったものをもう一度本会議でやるというのは、委員会主義の中でいかなものかなというものが正直あって。

鈴木委員、今回例えば、大変申し訳ないんですけども、まだ入って間もないからあれかもしれないんですけども。今回の件ですと、例えば図書館の話で、委員会で話して、私はこういう意見だから反対ですって討論を委員会の中でしていただいたと思うんですけども、賛否を採って、今度は委員長がその内容を本会議で報告してくれたという内容。であれば、もうその委員会の方々は、議論は、要は終結しているはずなんですよ。終結というか、要は。委員長が、こういう意見もあったから反対もありましたけれども、賛成多数で可決になりましたって、否決の意見も賛成の意見もいろいろ出て報告していると思うんですけども。

今度はほかの委員会の方が、例えば、でもこれ委員長、これ違うんじゃないのって言って賛成、反対という討論をするのが本会議の在り方であるのかなと。2回も3回も、これ委員会で賛成、反対言って、また次も、例えばこの間の図書館だったら反対を言って、またもう一回反対というのは、その常任委員会の報告をどうしたいのという話になってきちゃう、分からないよね。

鈴木委員 委員会の中で反対したじゃないですか。その後、最後に本会議のときに、賛成ですか、反対ですかというときに、そのときは委員会で反対したのに賛成って言っていいんですか、反対と言うんですか。

小池委員 委員会の中で反対って言ったんだろう。委員会の中で反対で、本会議で賛成おかしくなっちゃう。

鈴木委員 おかしくなりますよね。そのために、私は、だから反対ですみたいなことは言わないで反対みたいな。

委員長 やっぱり常任委員会って、非常に一番、格が高い、常任委員会で話す内容というのは、言うなれば、皆さんがその委員会にこの案件は付託しました、皆さんでちゃんと話し合

ってくださいね。その中で、今回の件であれば図書館は、委員会の中で、私はこういう意見で反対しました、反対しますとって話が終わりました。そうすると、今度は委員長が、その委員の皆様の見解を持って、本会議で、こういう意見で反対もありましたが、賛成多数で可決しましたとって、これが多分、委員長が報告する重みが今度は出てくる。そうすると、今度はまた委員が、委員長が報告しているのに、なんでまた委員会の内容を本会議でやるのという話に。

鈴木委員 そうしたら、もし反対があったときは、この間のときも、意見は言わないで反対。

委員長 というのが本来であると委員会主義の本会議の在り方なのかな。そのほかにもありましたよ、正直。産業建設もいましたよね。

鈴木委員 そういうものなのかと思っていました。

委員長 だから、そう思っちゃうと思います、多分。だけれども、ちょっと違う。なかなか所管だからというのが、ちょっと今そういうので、あまり変な乱発の仕方をしているという。ほかの委員会の人、例えば委員長のその報告に対して、やっぱり私はそれは賛成だったけれども、みんな賛成多数だったけれども、私は反対です、図書館のシステムについてはちょっと意見が言えないから、そこでしか、逆に言ったら。というのだと思うんですよ。

君嶋委員 だから、本会議で何で反対討論しなかったんだと言われたときは、私は所管の委員会でそのとき討論して反対しましたよということを伝えればいいいわいで。

(複数の発言あり)

委員長 でも、本当、言葉悪いんだけど、鈴木委員は別だったとしても、何か変に悪用まで言うとおかしいけれども、パフォーマンスではないけれども、そっちを主流にしているって、市民の皆さん、来てよ、こうだよあだよなんて言う方もいなくはないという、討論しますからという。何かそれってちょっと違うんじゃないの。でも、それ止める方法はまだないよね。

次長補佐 会議規則上見ても、いろいろ調べてもできないというのはない、討論を妨げることはできない。

委員長 とは思うんですけども。

副委員長 だから、内規上は多分、内規には明記はしていないと思う。

次長補佐 内規にも明記はしていないです。

副委員長 妨げられないということになっているんで、条例等、内規もないんだけど。

(複数の発言あり)

委員長 だから、ちょっと今回、例えば陳情に対する云々も出てきたり、例えば各補正予算についても、委員会で話し合っている内容をまた、委員会は何やっていたのという話になっちゃうし、委員長報告すらもないがしろにしているということになってきちゃうので。どうなの、内規とか、これも難しい。ちょっと今、議会運営委員会にかけてみたという

ことなんですけれども。縛るつもりもないんですけれども。

(複数の発言あり)

委員長 まして先輩議員がやっているから。そう思っちゃうのは、これは致し方ないなって、それは思うんですけれども。

副議長 討論がパフォーマンス化しているというのを何とかしたいという。

小池委員 だって、委員長報告に対したってそうだろう。持論を展開しながら。聞くことだけ簡潔明瞭に聞いてくれよと。

(複数の発言あり)

委員長 その討論だって、やっぱりほかの委員会の人が、こうだよな、ああだよなって言って、心を動かされたと思ったら、そうだよなって。それだったら多分、この本会議の討論の在り方で、これはいいことだと思うんです。

君嶋委員 所属している委員会の討論に関しては、委員会ですっかりと議論して。

副議長 本会議での討論はお控えいただける、やめろとは言えないですからね。完全に妨げるものではないですけれども、やっぱり。

委員長 委員会でもっと話し合ってください、本会議で自身の委員会の内容についてはね、本会議場で賛成、反対討論というのではなく、委員会でもっともんでくださいというかね、議論をし尽くしてくださいという、ちょっと考えて報告に入れたいなど。

副議長 決まり上は駄目だということはないんで、その文章も柔らかな感じで、よく熟考の上で配慮いただきたいって。

(複数の発言あり)

委員長 ちょっと、事務局と相談して、どういう形になるか分かりません。ちょっと委員長報告をもって促していきたいなと思います。

そのほかございますでしょうか。

(なし)

委員長 それでは、ないようですので、以上で議会運営委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会(午前11時16分)

令和7年8月26日

那珂市議会 議会運営委員会委員長 大和田 和男